

# 令和5年度 自己評価計画最終報告書

	重点目標		具体的取組	主担当	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	最終評価	評価及び課題
1	ICT機器を活用した 集団学習の充実	①	GIGAスクール構想の理解をさらに深め、ICT機器を日々の学習活動の中で効果的に活用し、集団での学習を充実させる。	全学部 GIGAスクール構想研修推進委員会	【成果指標】 ICT機器を活用し、集団での学習の充実に向けて自己の実践が整理できる。	ICT機器を活用して集団での学習の充実を図り、自分なりに成果や課題を整理することができた。 A: あてはまる B: ややあてはまる C: あまりあてはまらない D: あてはまらない	【A+Bが80%以上で達成】	A+B 88.4%	集計結果として、Aは27.3%、Bは61.1%、Cは9.1%、Dは2.5%であった。A+Bは88.4%で達成度判定基準を上回った。GIGAスクール構想も3年が経過し、学習場面でICT機器を活用することが普通に行われるようになってきたことが、教員のアンケート結果からうかがえる。その中で、口頭では恥ずかしくて意見を言えない生徒が、アプリを通して皆と意見交換し合ったり、自己表現力を高めたりした事例が報告された。徐々に生徒が表現する学習ツールとして活用されてきている。好事例を共有し、教員一人一人が自らの課題としている点の改善に生かせるよう、さらに取り組んでいきたい。
			②		全学部	【満足度指標】 学校は集団での学習をすすめている。	授業参観や日々の児童生徒の様子、通信やHPなどから、学校が集団での学習を進め充実させている様子が表れている。 A: あてはまる B: ややあてはまる C: あまりあてはまらない D: あてはまらない	【A+Bが80%以上で達成】	A+B 98.5%
学校関係者評価委員会の評価			<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評議員3年目。ICT機器の活用について、最初は試行錯誤している感じだったが、現在は実践が定着している事がうかがえる。</li> <li>・年配の先生は、ついていけているか。現代は「わからない」では済まされない。学校現場は時代に対応していかなければならない。</li> <li>・便利になっていく一方で一つ一つのコミュニケーションといった大事なものが失われていくという思いがある。生活の中でそういう部分を大事にして欲しい。</li> <li>・学校公開で国語の授業を見た。イラストを拡大して注目させる工夫があり、教科書とICT機器を併用しながら活用している様子が分かった。</li> </ul>						
学校関係諸評価委員会の評価を踏まえた今後の改善計画			<ul style="list-style-type: none"> <li>・若手・ベテランを問わず、機器活用のスキルと効果的な活用法について学んでいかなければならない。今年度、学年で1事例ずつ集団学習の充実を図るための取り組みを報告し合った。今後も、それぞれの取り組みを共有し好事例から学んでいく取り組みを継続していく。</li> <li>・ICT機器の活用は、ICT機器が得意とする分野での活用を図ることが有効。児童生徒との心のやり取りといったコミュニケーションの面も大切にしていく。</li> </ul>						
2	教科指導及び実践力の向上	①	県事業と学校研究を一本化し、昨年までの学校研究で構築した皆で授業を作り上げる過程を大切に、授業づくりを行っていく。	研究研修課	【成果指標】 各教科の授業づくりに係る様々なプロセスの中で指導力や実践力を高める。	一人一人の教員が各教科の授業づくりにおける様々なプロセスに関わり、各教科の指導力や実践力を高めることができた。 A: あてはまる B: ややあてはまる C: あまりあてはまらない D: あてはまらない	【A+Bが80%以上で達成】	A+B 97.5%	集計結果として、Aは19.8%、Bは77.7%、Cは2.5%、Dは0%であった。A+Bは97.5%で達成度判定基準を上回った。今年度も学校研究で、研究授業を授業者一人のものとはせず、題材の設定から全員で取り組んでおり、一人一人の教員が授業づくりのプロセスに関わってきた。ほぼ全員の教員が自らの教科指導力や実践力が高まったと感じている。今後は学校全体でさらなる授業改善を進めることが課題となる。
			学校関係者評価委員会の評価			<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校全体でチームとして課題に向かう取り組みが継続されているのが良い。引き続き実践を行い、成果を共有していくことが求められる。</li> <li>・オンラインによる学校研究の配信を拝聴した。一人一人の児童生徒に対し、熱心に取り組んでいることが分かった。実際の指導の場で、先生方の熱量を感じながら、子どもの様子を見たいと思った。</li> <li>・先生方が教科指導を頑張っていることを知ることができた。</li> <li>・障害の重い児童生徒の様子も保護者にアピールしていくとよい。</li> </ul>			
学校関係諸評価委員会の評価を踏まえた今後の改善計画			<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究授業を自分の授業として捉え、授業づくりに係る様々なプロセスに、一人一人の教員が積極的に関わる姿勢を継続する。</li> <li>・障害の重い児童生徒の教科指導に全校で取り組んでいく。</li> </ul>						
3	一人一人の障害特性に配慮した安全安心な学校運営	①	昨年度まで制限されていた活動を再開するにあたり、これまでの体制や内容を見直し、一人一人の障害特性等に配慮した安全安心で、より良い学習活動を立案・実施していく。	全学部	【成果指標】 安全安心な学習活動について、日常的に学部学年等で話題として取り上げ適切な環境で取り組む。	安全安心な学習活動について、日常的に学部や学年で話題として取り上げ適切な環境で取り組むことができる。 A: あてはまる B: ややあてはまる C: あまりあてはまらない D: あてはまらない	【A+Bが80%以上で達成】	A+B 98.4%	集計結果として、Aは47.1%、Bは51.3%、Cは0.8%、Dは0.8%であった。A+Bは98.4%で達成度判定基準を上回った。中間評価時もA+Bの98%だったが、最終評価ではA評価の割合が4%増加し、C評価の割合が微減した。前期から継続的に取り組んできている学部・学年ごとの情報共有のための打合せが定着し、適切な学習環境作りが行われている。次年度以降も、今年度効果のあった取組を継続し、安全安心な学習環境づくりに努めていく。
			学校関係者評価委員会の評価			<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全安心な学習活動の再開に向けて、関係者間で連携をとりながら取り組んでいることが分かった。</li> <li>・障害のある児童生徒の学習環境の改善に取り組んでいることが分かった。</li> </ul>			
学校関係諸評価委員会の評価を踏まえた今後の改善計画			<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全安心な学習活動の再開に向けて、関係者間で連携をとりながら取り組んでいることが分かった。</li> <li>・障害のある児童生徒の学習環境の改善に取り組んでいることが分かった。</li> </ul>						

	重点目標		具体的取組	主担当	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	最終評価	評価及び課題
		②		全学部	【満足度指標】 教員は障害特性や環境等に配慮した体制整備に努め、児童生徒は安心して学習活動を行っている。	教員は、障害特性や環境等に配慮した環境整備に努め、児童生徒が安心して学校生活を送ることができるよう指導・支援している。 A: あてはまる B: ややあてはまる C: あまりあてはまらない D: あてはまらない	【A+Bが80%以上で達成】	A+B 99.1%	集計結果として、Aは74.8%、Bは24.3%、Cは0.9%、Dは0%であった。A+Bは99.1%で達成度判定基準を上回った。中間評価時から高い割合で評価を受けており、最終評価でも教員による障害特性や環境等に配慮した環境作り、児童生徒が安心して学校生活を送ることができる指導・支援について高い評価を頂いた。しかし、残り1%には厳しい意見もある。次年度以降も児童生徒増の中で、一人一人の障害特性に配慮した活動が行えるよう、取り組みを進めていかなければならない。
学校関係者評価委員会の評価			<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナが5類になり、学習環境の変化に対応している。保護者にもそれが伝わっている。</li> <li>・大きな地震が起こった。学校は子供たちの安全を考えると判定基準が80%では甘いのではないか。子供たちの安全を確保するためには、厳しい基準を設ける必要もある。</li> <li>・一人一人の特性に配慮して取り組んでくれていると思う。懇談等で保護者に「このような配慮を行っている」と伝えてもらえるともっとよい。</li> </ul>						
学校関係諸評価委員会の評価を踏まえた今後の改善計画			<ul style="list-style-type: none"> <li>・能登半島地震を教訓に、児童生徒の引き渡し方法の見直しや、引き渡せない場合の学校での宿泊について、備品や備蓄品の見直しなどを行う。</li> <li>・児童生徒への防災教育に取り組む。</li> <li>・一人一人の障害特性に対し、どのような配慮や支援を行っているのかを、懇談等を通して積極的に保護者に伝えていく。</li> </ul>						
4	業務改善 (業務の効率化)	①	業務改善に向けて、今年度もICT支援員の力を借りながら、分掌業務のデジタル化をさらに推進し、業務の効率化を図る。	全学部・部門 各課 教育相談部 自立活動部 県特研	【成果指標】 各部署ごとに業務の効率化を図る具体的な業務を定め、チームとして業務の効率化に取り組む。	各部署ごとに対象として定めた業務について、効率的に業務を行うことができた。 A: あてはまる B: ややあてはまる C: あまりあてはまらない D: あてはまらない	【A+Bが80%以上で達成】	A+B 100%	集計結果として、Aは28.6%、Bは71.4%、Cは0%、Dは0%であった。A+Bは100%で達成度判定基準を上回った。どの部署においても、ICTを活用して業務の効率化を図る取り組みがなされており、特にアンケートに関しては、教職員対象のものはほぼ100%デジタル化された。各部署ごとの取り組みを推進することで、学校全体として一段デジタル化が進んだ。次年度以降においても、さらに業務の効率化を進めるために、チームとして業務の見直しを図っていく。
学校関係者評価委員会の評価			<ul style="list-style-type: none"> <li>・長時間労働の教員はいないか。</li> <li>・ICT機器の活用について、手技を教えてくれたり保守を担当してくれたりする教員の負担が大きくなるようにしてほしい。</li> <li>・業務改善の結果、なくなったり縮小したりした行事等がある。保護者としては寂しい思いもある。業務の効率化・軽減もよいが、例えば外部委託するなどの方策も検討するとよい。</li> </ul>						
学校関係諸評価委員会の評価を踏まえた今後の改善計画			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器の保守整備の他、様々な情報処理に関する手法(プログラムを組むこと)等、ICT支援員の活用をさらに図っていく。</li> <li>・業務の効率化や改善のために、外部委託も一つの手段・選択肢として検討していく。</li> </ul>						